

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 海外協定大学への学生派遣

大学間協定に基づく派遣日本人学生数1500人を突破

実績(人)					目標(人)		
H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 28	H 31	H 35
895	954	1057	1381	1570	1090	1560	2500

平成29年度は1,570人を海外協定校に派遣し、前年度比189人増、平成31年度目標を2年前倒しで達成することができた。

学生の海外派遣の量的拡大を目指し、全学派遣新規プログラムの拡充に加え、在学生向け広報活動の強化を行った。また、各学部・研究科の学問領域に根差した特色あるモバイルプログラムの開発を進め、学部・研究科実施のプログラム数は前年度比1.35倍の46プログラムとなり、質的量的の両側面からプログラムの拡充を図った。

2. 留学生受入

平成29年度は1,243人まで増加し、学生派遣同様、平成31年度目標を2年前倒しで達成することができた。

受入プログラム拡充の一環として、日本・東アジア研究をテーマとしたサマースクールを新規開発。平成30年度提供に向けて準備を進めた。

また、平成29年度より、受入留学生向けの教育に専従する教員2名を増員し、日本人学生とのフュージョン(融合)に焦点を合わせた正課科目の体系化に着手、あわせて正課外教育の整備を行った。

全学生に占める外国人留学生数

実績(人)					目標(人)		
H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H28	H31	H35
913	920	1052	1115	1243	1020	1200	1500

3. 習熟度別英語教育の強化

平成29年度入学生から、GTECを用いた「全学プレースメントテスト」を実施し、入学直後からの習熟度別クラス編成を全学的に推進した。また、従来、全学科目としての英語教育は上位層を主対象としてきたが、新規に採用した専任教員の下、平成29年度入学生より、下位層に特化した全学英語科目も提供を開始した。これにより、各学部は中間レベルのマス層にフォーカスした英語教育の展開が可能となり、学生の英語レベルの全体的底上げを図った。

なお、本学SGU構想では、英語力基準(TOEFL-ITP®で国際学部550点、文・総合政策学部540点、その他の学部520点)を満たす学生数を平成25年度の1,027人から約2倍に拡大することを計画している。平成29年度の当該学生数は1,868人で、前年度実績値1,381人を大きく上回った。

ガバナンス改革関連

「Kwansei Grand Challenge 2039」超長期ビジョン・長期戦略の策定

「世界的課題の解決に挑む、『強さと品位』を持った人間を育てる」という教育理念の下、創立150周年を迎える2039年を見据えた、超長期ビジョン(2039年の関西学院のありたい姿・あるべき姿)と長期戦略(超長期ビジョン前半10年間(2018年～2027年度)の基本方針や方向性)からなる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を平成29年度に策定した。これは、学修成果を含めた学生のラーニングアウトカムに焦点をあて、未来予測からの演繹的なアプローチで立案したもので、大学とその各学部/研究科、短大等の学院全体が連動する総合的計画として、経営と教学が一体となった取り組みを行う。



教育改革関連

1. 全学ポートフォリオの試行運用開始

全学生を対象として、学習状況、留学等の海外活動、正課外活動、就職活動など大学生活の経験全般を含んだ本学独自のe-ポートフォリオの設計・制作を行い、平成29年度から試行的に運用を開始した。モバイルアプリは平成30年4月時点で、平成29年度及び30年度入学者数の9割となる約11,000件がダウンロードされた。

今後は平成31年度の本格稼働に向け、学生の積極的な利用や、学修行動の振り返りを促すため、学部等と連携し、改善や機能追加について検討する。

2. 西宮聖和キャンパスに共同学習スペース

「ラーニングコモンズ」の新設

平成29年度、教育学部・教育学研究科を擁する西宮聖和キャンパスの中心地に、「ラーニングコモンズ(リプラ)」を新設。学生同士が「学び」をともに探究することを目的とした各種イベントを年間を通じて提供した。これにより、本学の学部が所在する3キャンパス全てに「ラーニングコモンズ」が整備され、アクティブラーニングに適した教育・学習環境を拡充できた。



〈新設したラーニングコモンズで開催された参加型イベントの様子〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジ単位取得者数

学生がホームとアウェイの2つのチャレンジに取り組む「ダブルチャレンジ制度」において、アウェイチャレンジ各プログラムで単位を取得して平成29年度に卒業した者の延べ人数は、インターナショナルプログラム868人、ハンズオン・ラーニング・プログラム1,213人、副専攻プログラム150人で、実数の単位取得者数は合計1,962人である。

2. 大学院副専攻「国連・外交コース」本格始動

国連・国際機関職員や外交官等、「世界の公共分野で活躍するグローバルリーダー」を育成することを目的に、平成29年度より大学院「国連・外交コース」を開設した。これは、大学院博士課程前期課程修士および大学院専門職課程（専門職学位）の副専攻プログラムとして提供するもので、学生は各研究科の入試を経て所属研究科での学位取得をめざすと同時に、「国連・外交コース」所定課程から23単位を修得し、実践的能力を養う。

全授業が英語で行われる同コースには、平成29年度、第1期生として8人の学生が国内外から集まった。平成30年度春学期には第2期生として新たに9名の学生がコースに加わった。

3. ハンズオン・ラーニングセンターの開設



ハンズオン・ラーニング(実践型学習)科目を開発、運営する拠点として、ハンズオン・ラーニング・センターを平成29年度に開設。専従の教職員が「キャンパスを出て、実社会を学ぶ」実践的・体験的な教育プログラムの質量両面での拡充、カリキュラムの体系化を進めた。全学ハンズオン・ラーニング科目として33科目を提供、約500人の学生がプログラムに参加した。

全国で展開しているユニークな取組はマスメディアでも多く報道され、アクティブラーニングの先進的取組事例として、学外からも高い関心が寄せられた。

<取組事例その1>:「福島から原発を考える」をテーマとした特別演習。福島第一原発事故の現状に関し現地でのフィールドワークを実施、福島県庁職員やエネルギー問題の専門家からの講義を受講後、グループでの調査研究を進め、研究成果を政策提言として発表した。

<取組事例その2>:兵庫県朝来市商工会等と連携した社会探究実践演習「朝来・竹田城下活性化プロジェクト」。観光客への聞き取り調査をもとに、観光振興プランやバス広告、SNSを活用した課題解決提案を行った。



〈朝来・竹田城下 活性化PJTで観光振興案をプレゼンする参加学生〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. 高大接続と連携の推進 —世界市民明石塾の実施—

平成28年度に引き続き、高大接続の一環として、元国連事務次長の明石康教授が塾長を務める「関西学院世界市民明石塾」を開講した。8月～11月の4日間にわたって実施し、全国のスーパーグローバルハイスクールを中心に選抜された20名の高校生が参加した。

明石教授を筆頭に、国連・外交分野の第一線で活躍してきた実務経験豊富な本学教員、そして世界各地で活躍する現役国連職員たちによる講義を受講した参加生徒たちは、国連が直面する難しい課題に対し、事前のリサーチと当日の限られた時間の中で、意欲的に取り組んだ。



〈世界市民明石塾開催初日に明石康塾長から激励を受ける高校生の参加者たち〉

2. 国連・外交コース1期生が海外の国際機関でインターンシップを経験

平成29年度に新設した大学院副専攻「国連・外交コース」では、海外の国際機関等でのインターンシップを必修としており、同年度は2人の学生がタイ、ネパールの国連開発計画(UNDP)で約3か月のインターンシップを経験した。

参加学生は、プロジェクトサイトへの訪問、聞き取り調査・分析や、SDGs(持続可能な開発目標)の促進活動等、現場の国連職員、地域住民との実際の関わりを通して、実務経験を積むことができた。



〈ネパールUNDPインターン学生、プロジェクトサイトで現地の人々〉

■ 自由記述欄

IAEA事務局長天野之弥氏による講演会等、国連・外交関連イベントの開催

「国連・外交コース」開設を記念し、4月13日に、国際原子力機関(IAEA)事務局長、天野之弥氏による講演会「Atoms for Peace and Development: the work of the IAEA and how it relates to you(平和と開発のための原子力:IAEAの仕事と私たち)」(使用言語:英語)を西宮上ヶ原キャンパスで開催した。

天野事務局長は、核の軍事転用防止や原子力平和利用に向けたIAEAの取組みや課題など具体的な事例を交えて紹介。その後、「国連・外交コース」第1期生とともに、セッションを行った。

上記以外にも、「国連・外交コース」開設記念オープンセミナーを行ったほか、外務省国際機関人事センターと連携した国際機関キャリアガイダンス等のイベントを複数開催し、国際機関職員の拡大に貢献すべく、年間を通じて充実した国連・外交関連イベントを開催した。